

優良種子の安定供給に向けた水稻種子場の運営支援

会津農林事務所会津坂下農業普及所

1 背景・ねらい

主要農作物種子法（昭和27年5月制定、平成30年4月廃止）

- 稲、麦、大豆について、優良品種（奨励品種）の選定、原原種および原種・一般種子の生産と安定供給を **都道府県に義務付け**
廃止に伴い、**県が主要農作物種子生産取扱い基本要綱を定め、継続して優良種子の安定供給に取り組む。**

普及の現場では…

種苗法に基づく指定種苗の生産等に関する基準、
福島県主要農作物種子検査要領 に基づき検査を行う。

- ・ 品種純度・病害虫等の状況について「ほ場確認」、種子の「生産等基準検査」の実施
- ・ 優良種子の安定供給のため、種子場の運営支援が普及の重要な役割！

「会津よつば農業協同組合湯川水稻採種部会」

- ・ 令和2年度 部会員 23名、5班体制 生産種子面積 計 6,530a、ほ場 220筆
「福島40号(福、笑い)」、「五百万石」、「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」4品種生産部会と関わる中で感じたこと：

- **高齢化、引退を考える人の増加、後継者の存在が不明瞭**
- **毎年大きく変わる気象のなか、厳格な栽培管理を徹底することの難しさ**

□課題「長期的な種子の安定供給」、「優良種子の生産」両方の取り組みへの対応

- ・ 引退者が出たとき、採種ほの後継者がいない場合、周囲の部会員の面積負担が増加
- ・ 高齢化により、5年、10年先の種子生産体制の見通しが不透明
- ・ ほ場・生産者間における品質のバラつき、気象の変化への対応 など…

□ねらい 20年後においても優良種子の供給が持続可能な採種部会の体制作り

2 活動内容

○ 採種部会の現状把握と情報の整理

湯川営農経済センター(農協)、湯川村役場の理解・協力のもと、
調査研究として、**部会員全員へアンケート調査**を実施

○ 種子生産者の掘り起こし

○ 優良種子生産に係る検査、種子場の運営に係る支援

- ・ 採種ほ耕種基準・土壌分析結果に基づく採種指導会
- ・ 「福、笑い」種子生産者説明会
- ・ 採種ほ育苗巡回指導会 など…

◇「ほ場確認」種子場の一大イベント

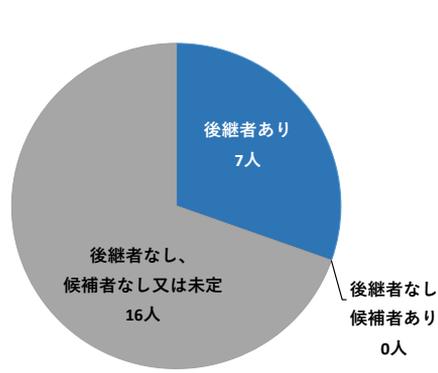
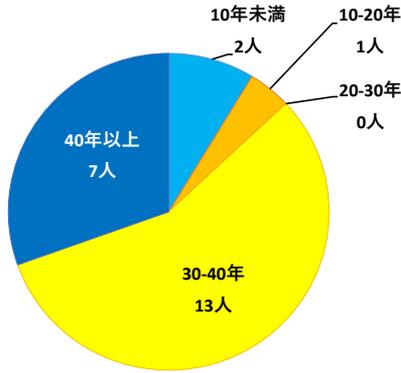
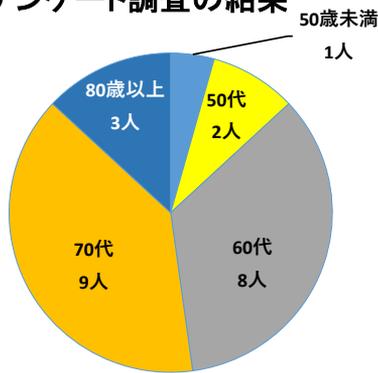
ほ場全筆の生育状況等を確認・指導
普及所(種子検査員)のほか、
採種部会、農協、湯川村役場、米改良協会、全農が参加

➡ 多くの関係機関の連携と協力で成り立っている。



3 活動成果

○アンケート調査の結果



部会員年齢構成 (R2.11末現在)

採種ほ経験年数 (R2.4現在)

採種ほの後継者について

- 平均年齢が約70歳で半数が70歳以上。しばらく新規加入がない（一番短い方で経験7年）。
- 後継者がいる方は7名。後継者がいない方は16名で、後継者・候補者はいない又は未定。
- 今年度で2名が引退することが決定。次年度の契約面積は変わらない見込み、同班・同集落の部会員が作付面積を増やして対応予定。
- 今後、部会員が自分で対応可能な年数は、2~15年、平均で8.6年程度。



- ❗ 数年後にはさらに引退者が増加する予想
- ❗ 一人当たり作付面積が増加。採種ほの面積増加は、負担が大

アンケート結果について、採種部会や農協および役場とも情報を共有

○湯川村農業振興ビジョンへの位置づけを検討、関係機関が協力して支援を行う考え

候補者掘り起こし、世代交代支援、新規就農者確保支援 etc...

・・・一方で、新たに採種農家を1名確保！また、採種農家候補を数名掘り起こし。

○優良種子生産に係る検査、種子場の運営に係る支援

- 採種ほ場付近一般ほ場で、ばか苗病罹病疑い稲を発見
 - 湯川村水稻農家全体へ注意喚起依頼チラシ配布。採種部会、農協、普及所で巡回、罹病疑いの稲を除去。
- R2年産は過去に例のないほど倒伏が多発
 - 収穫前に全倒伏ほ場を確認、刈り分け等の指導。倒伏要因解析、次年度に向けて取り組みを指導。
- 倒伏の影響が懸念されたが、4品種とも契約数量達成。
- 生産等基準検査を実施、発芽率（約99%）、純潔種子率（異種種子等の夾雑物 0%）ともに基準をクリア。



【種子調製作業の確認】



【発芽率検査】

4 今後の活動・方向性

○長期的な種子の安定供給に向けた担い手の育成

- 関係機関が一体となった担い手支援体制の構築「採種部会・農協・役場・普及所」
- 種子生産担い手の掘り起こし、新規就農者確保・担い手育成
- 種子生産先進地事例の検討・現地研修

○優良種子生産の継続

